

共通基礎（英語等の外国語）科目に関する アンケート調査報告 ー学生への授業に対する意識ー

児島 千珠代・齋藤 華子

Abstract:

An investigation into students' perception about foreign language classes

Seisen University carried out a drastic curriculum reform in 2005 and then English was designated as a compulsory subject among several foreign languages. As ten years have passed since then, it might be a good time to review the foreign language education of Seisen University. Therefore, a questionnaire relating to foreign language classes was conducted to investigate freshmen's perception about learning English and other foreign languages. This paper reports how they think about foreign language classes after finishing one-year courses.

要 旨：

清泉女子大学では2005年度に全学的カリキュラム改革が実施され、外国語科目においては英語が必修化された。英語必修化から10年が経過し、本学の外国語教育の現状をあらためて見直す時期にきていると断言していいだろう。そこで本学全学科1年次生を対象に、「共通基礎（英語等の外国語）」科目に関するアンケート調査を実施し、2015年度に入学した学生たちが英語や英語以外の外国語を学ぶことについてどのような考えを持っているのかを調べた。本稿ではアンケート結果に見られた、現在の学生たちの外国語授業に対する意識を報告する。

キーワード：

外国語教育 授業に対する意識 学習意欲

1. はじめに

清泉女子大学（以下「本学」とする）では 2005（平成 17）年度に全学的カリキュラム改革が行われた¹。外国語科目についても、2 教科固定型入試の導入にともない、入試で英語を選択せずに入学する学生が出てきたこともあり、新入生の英語基礎力・応用力を養うため英語が必修化された。この英語必修化により、英語以外の外国語においても変更が生じた。1993（平成 5）年度から 2004（平成 16）年度までは、スペイン語スペイン文学科を除く全学科で英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語の 5 言語のうちの 1 つを選択必修²とする外国語履修方式がとられていたが、2005（平成 17）年度からはスペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語は選択科目の一つとなった。2007（平成 19）年度から朝鮮・韓国語も 2 コマ開設され、新入生が選択履修できる英語以外の外国語科目体制が整い、現在に至っている。この 5 つの言語のうち、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語については、英語プレイスメント・テストで基準点以上の得点をとるか、または履修相談担当教員からの許可を得ることで、英語の代わりに必修外国語として履修することも可能としているが、現実にはそうした履修者は多くはない。選択必修などで単位修得の必要性がない限り、大半の学生は英語を必修として履修しているのが現状である。

英語必修化にともない、学生の英語学習歴や学習ニーズを把握するため、必修英語履修者である 1・2 年次生を対象にしたアンケート調査が 2005（平成 17）、2006（平成 18）年度に実施されている³。しかしその後、英語等の外国語授業に対する学生の期待やニーズも変わってきている可能性がある。外国語カリキュラム改革から 10 年の時がたち、本学の言語教育をあらためて検討する時期にきているのではないだろうか。

こうした経緯から今年度は、外国語（英語・英語以外）科目運営会議のメンバーと、言語教育研究所所員が一堂に会する合同会議が 3 回開かれた。会議の間では外国語・日本語担当教員の立場から、また学科教員の立場か

¹ カリキュラム改革までの経緯については、平成 17 年度清泉女子大学言語教育研究所共同研究成果報告書『言語教育改革の課題と展望』（2007）にまとめられている。本章もこの報告書を参照した。

² スペイン語スペイン文学科生はスペイン語を除く 4 言語からの選択となる。

³ 前掲の言語教育研究所共同研究成果報告書に結果が掲載されている。

さまざまな意見が交わされたが、同時に、英語等の外国語を学ぶ学生たち自身の意見も聴取する必要があるのではないかと、との声があがった。現在の学生たちは英語や他の外国語を学ぶことについてどのような考えを持っているのか、現行の英語・外国語クラスの内容やレベルは、学生たちのニーズに適しているのか。それらを知ることは、今後の本学言語教育を考える上で大いに参考になるはずである。そこでまずは試みとして、全学科1年次生を対象にアンケート調査をおこない、学生たちの考えを聞いてみることにした。

なお本稿では、1年次生が取ることのできるスペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮・韓国語を「選択外国語」と呼ぶ。ただし前述の通り、これらのうちの朝鮮・韓国語を除く4言語については、必修科目としていずれかの言語を履修している学生も含まれることになる。

2. 調査

2.1. 対象者

調査を一斉に実施し、回答を確実に回収できる場を考え、英語プレイスメント・テスト実施時にアンケートをおこなうこととした。そのため対象者は、2016（平成28）年1月の英語プレイスメント・テストを受験した1年次生456名である。回答者数の内訳は次の通りである⁴。

日本語日本文学科	106名
英語英文学科	121名
スペイン語スペイン文学科	56名
文化史学科	111名
地球市民学科 ⁵	62名

2.2. 調査項目

2015（平成27）年度履修した英語・選択外国語に関して、以下の質問項目を用意し回答を求めた（資料「実施アンケート」参照）。

⁴ ただし、アンケートに答えた学生がすべての質問項目に回答しているわけではないため、以下に述べる結果では、各項目の回答者数（複数回答の場合はその回答数）を100%として割合を示している。

⁵ 以下、各学科名を「日文、英文、西文、文化史、地民」と称することがある。

- ・4月（履修開始時）の学習意欲
- ・1月（履修終了時）の学習意欲
- ・学習意欲維持の理由
- ・学習意欲減少の理由
- ・授業の難易度
- ・授業で学びたいこと

上記に加え選択外国語履修者には、次の質問も用意した。

- ・履修している選択外国語
- ・選択外国語履修の理由
- ・履修外国語をどのように活かしたいか
- ・来年度の選択外国語履修希望

各項目、用意した選択肢の中から最もあてはまるものを1つ、または複数選ぶよう指示した。選択肢の「その他」を選んだ場合には、マークシート裏面にその回答を書くよう求めた。

2.3. 方法

英語プレイスメント・テスト終了時にアンケート用紙（資料参照）と、回答を記入するマークシートを配布した。無記名ではあるが、次年度の英語クラス希望調査も兼ねて実施したこともあり、学籍番号は記入してもらうことにした。

3. 調査結果

必修科目の英語を履修した学生の回答を「3.1. 英語」で、英語以外の外国語を履修した学生の回答を「3.2. 選択外国語」で、それぞれ項目ごとに結果をまとめ、考察する。

3.1. 英語

＜学習意欲の変化＞

4月の履修開始時の学習意欲についての回答は、英語英文学科では「とてもやる気があった」が最多数だが、その他の4学科は「ある程度やる気があった」が最多数である（図1）。5学科ともやる気があるが、特に英語

英文学科のやる気が強いと言える。

一方、5学科とも「あまりやる気がなかった」「まったくやる気がなかった」という回答者が少数いる（日文14名、英文4名、西文9名、文化史17名、地民4名）。後述の選択外国語履修では4月にやる気のない学生が皆無だったことと異なり、必修の英語履修では4月からやる気のない学生が存在することが明らかになった。

1月現在の学習意欲を見ると、5学科ともやる気のある学生が最多数ではあるが、「とてもやる気がある」「ある程度やる気がある」の回答数合計は、文化史学科以外では、やや減少している（日文91名→90名、英文117名→113名、西文47名→42名、文化史91名→94名、地民57名→50名）。

逆に、約1年間の授業を終えた1月現在、やる気のない学生が若干増加しているのである。「あまりやる気がない」「まったくやる気がない」の回答数合計の変化を見てみると、文化史学科だけは減少しているが、その他の4学科では増加している（日文14名→15名、英文4名→8名、西文9名→14名、文化史17名→14名、地民4名→11名）。英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、地球市民学科など、語学重視の学科でやる気のない学生がやや増えている傾向が見られた。

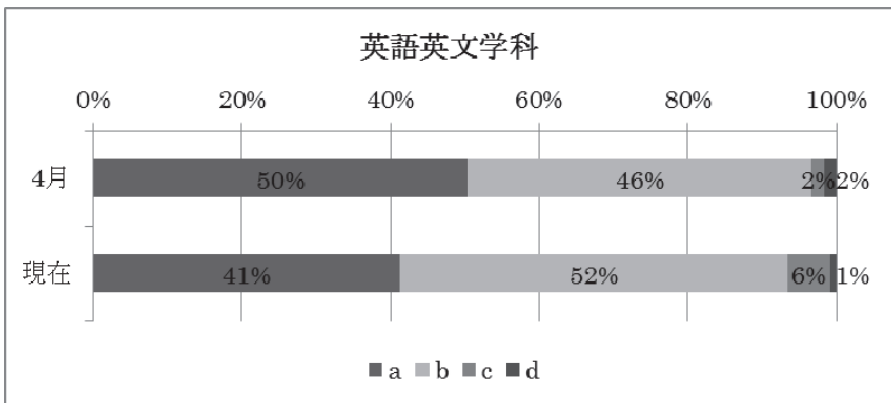
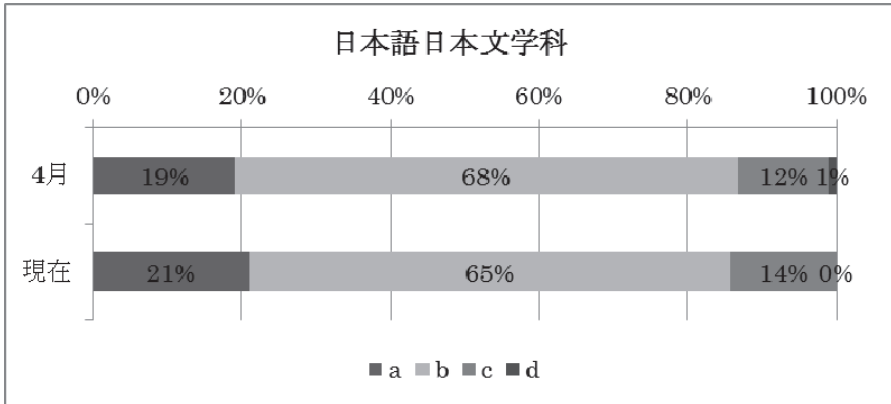
「今年度 4 月に英語の履修を始めるとき、あなたのやる気はどれくらいありましたか」

- a. とてもやる気があった
- b. ある程度やる気があった
- c. あまりやる気がなかった
- d. まったくやる気がなかった

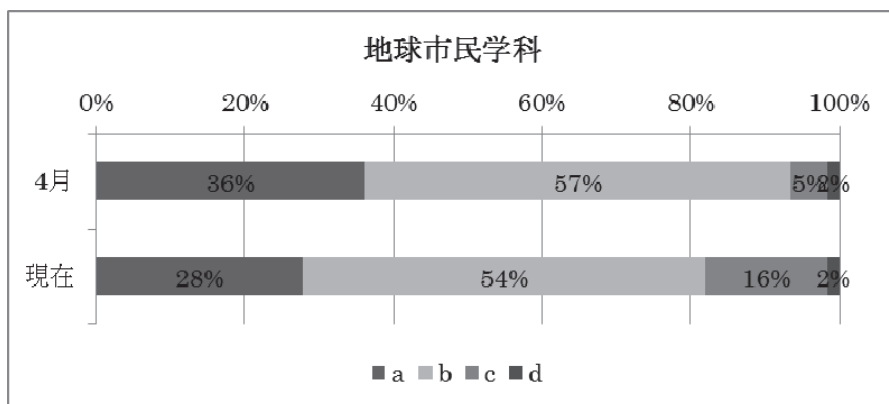
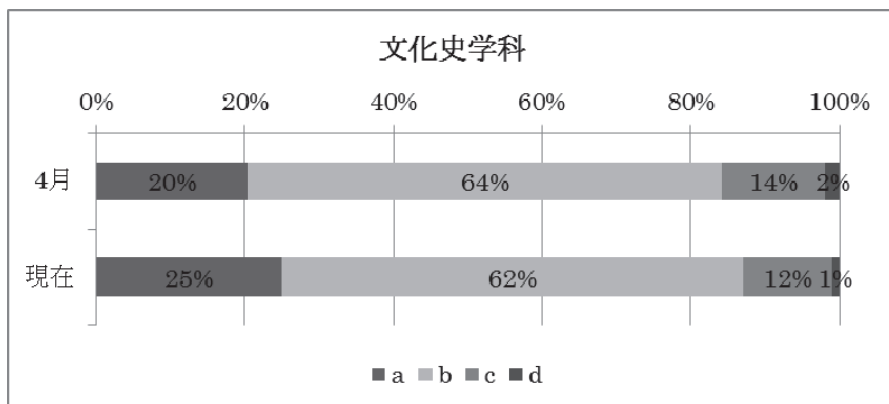
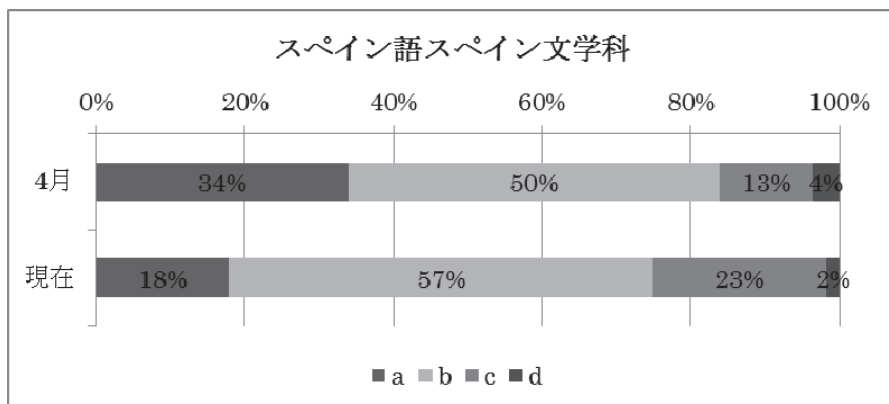
「英語の履修に対する現在のあなたのやる気はどれくらいありますか」

- a. とてもやる気がある
- b. ある程度やる気がある
- c. あまりやる気がない
- d. まったくやる気がない

図1 4月・1月現在の英語の履修に対する学習意欲



共通基礎（英語等の外国語）科目に関するアンケート調査報告
－学生の授業に対する意識－

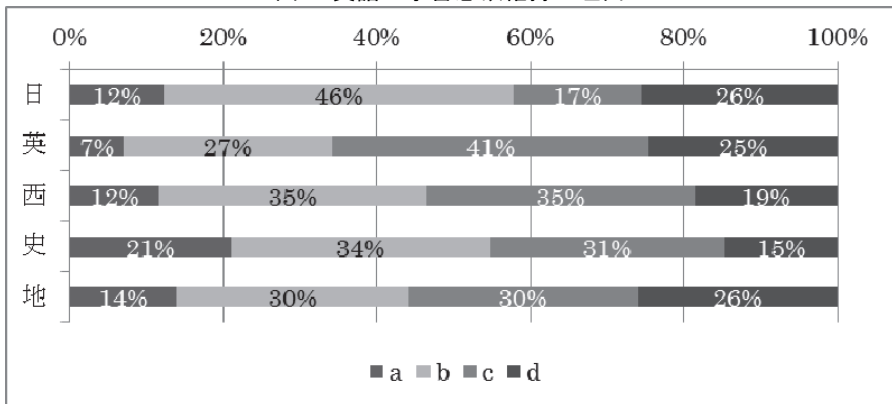


＜学習意欲維持の理由＞

1月現在「とても・ある程度やる気がある」と答えた学生たちが一番目あるいは二番目の理由として挙げたのは、5学科とも「授業の雰囲気（先生、クラスメート、進め方等）が良いから」であった（図2）。この点は、選択外国語履修の結果で「話せるようになりたいから」という回答が最多数であったことと異なる。必修科目である英語の授業は「授業の雰囲気」が自分に合うことが、学習意欲維持の要因の一つであることが示唆された。

それぞれの学科の特徴として、日本語日本文学科と文化史学科は「授業の雰囲気（先生、クラスメート、進め方等）が良いから」が最多数で、英語英文学科は「話せるようになりたいから」が最多数である。スペイン語スペイン文学科と地球市民学科は、これら二つの選択肢の回答は同数であった。また、日文、英文、地民では、「将来きっと役に立つ」という思いが強いが、文化史では「自分のレベルに合っている」ことを学習意欲維持の理由としてとらえている学生が多い。

図2 英語の学習意欲維持の理由



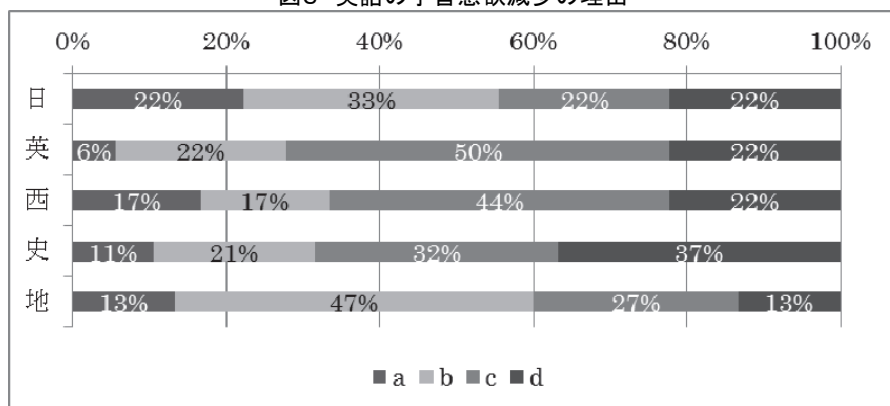
- a. 自分のレベルに合っているから
- b. 授業の雰囲気（先生、クラスメート、進め方等）が良いから
- c. 話せるようになりたいから
- d. 将来きっと役に立つと思うから

＜学習意欲減少の理由＞

1年間授業を受けた後、やる気がなくなった理由で最も多い回答は学科により異なった（図3）。日本語日本文学科と地球市民学科は「文を読んだり書いたりするのが難しいから」、英語英文学科とスペイン語スペイン文学科は「話したり聞き取ったりするのが難しいから」、文化史学科は「英語に関わる文化に興味を持てないから」が、それぞれ最多数の回答である。たとえば、「話したり聞き取ったりするのが難しいから」という理由が、授業内容によるものか、あるいは学生の個人的な要因なのかを明らかにするためには、もう少し詳しい調査、あるいはインタビューなどが必要であろう。

「自分のレベルに合っていないから」学習意欲が減少したと回答した学生は少ない（日文4名、英文1名、西文3名、文化史2名、地民2名）。この結果から、授業のレベルが原因でやる気がなくなった学生はごく少数であると言える。

図3 英語の学習意欲減少の理由



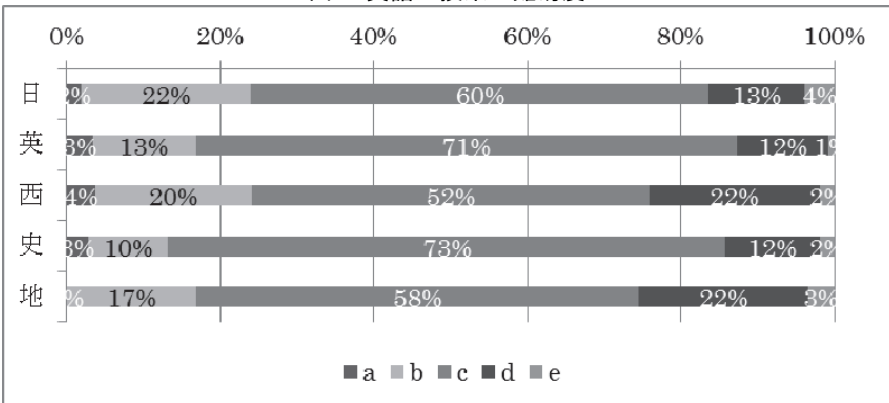
- a. 自分のレベルに合っていないから
- b. 文を読んだり書いたりするのが難しいから
- c. 話したり聞き取ったりするのが難しいから
- d. 英語に関わる文化に興味を持てないから

＜授業の難易度＞

授業の難易度（図4）については、5学科とも「ちょうどよい」という回答が最も多い（日文62名、英文84名、西文28名、文化史77名、地民34名）。一方、「とても難しい」と「難しい」の合計は、日文25名、英文20名、西文13名、文化史14名、地民10名であり、「易しい」「とても易しい」の合計は、日文17名、英文15名、西文13名、文化史15名、地民15名である。

「ちょうどよい」と思っている人数が最も多いので、問題はないように見えるが、「とても難しい」「難しい」「易しい」「とても易しい」を足した人数、すなわち、「ちょうどよい」と思っていない人数の合計は、日文42名、英文35名、西文26名、文化史29名、地民25名である。これらの人数を少数と考えて良いのかどうかは、一考の余地があると思われる。特に、スペイン語スペイン文学科では、28名が「ちょうどよい」と思っているのに対して、26名は「ちょうどよいと思っていない」のである。

図4 英語の授業の難易度

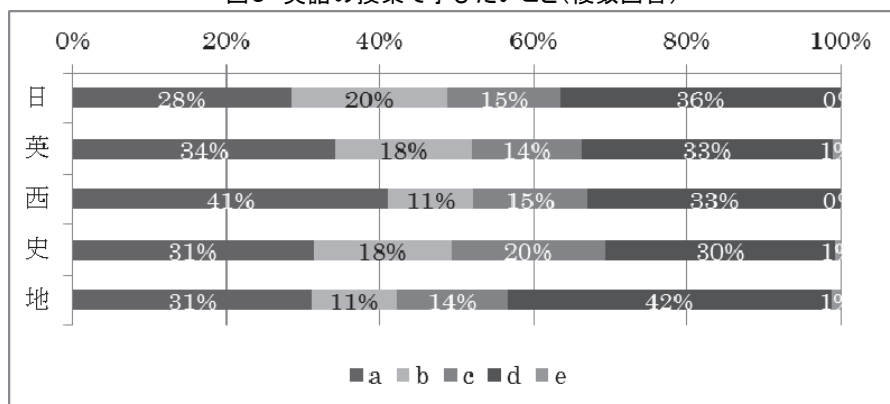


- a. とても難しい
- b. 難しい
- c. ちょうどよい
- d. 易しい
- e. とても易しい

＜授業で学びたいこと＞

英語の授業で学びたいこととして挙げられた回答数は、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科では「会話練習をしたい」が最も多く、日本語日本文学科と地球市民学科では「社会に出てから役に立つ英語を学びたい」が最も多かった（図5）。これらの結果から、全体的に「英語の本を読んだり、英語に関わる文化を学んだりする」ことより、「社会で役に立つように、英語を話せるようになりたい」気持ちのほうが強いことがわかる。ただ、学生側の希望だけを重視すると、語学学校のようになってしまう、語学学校とは異なる、大学としての特色を失う危険性も憂慮される。

図5 英語の授業で学びたいこと(複数回答)



- a. 会話練習をしたい
- b. 文章や本を読みたい
- c. 英語に関わる文化を学びたい
- d. 社会に出てから役に立つ英語を学びたい
- e. その他

3.2. 選択外国語

続いて選択外国語についての結果を見ていく。必修英語に比べ回答者数が少なくなるため、各学科別の回答割合を示すグラフだけでなく、集計人数をまとめた表も見ながら考察していく。

< 選択外国語履修状況 >

2015（平成 27）年度現在のカリキュラムで 1 年次生が履修できる外国語はスペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮・韓国語である。すでに述べたとおり、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語は、英語プレースメント・テストで基準点以上の得点を得た場合、または履修相談担当教員から許可を得た場合には、英語に代えて必修科目としてとることも可能である。実際に 2015（平成 27）年度の 1 年次生のうち 9 名（スペイン語 1 名、フランス語 3 名、ドイツ語 3 名、中国語 2 名）が必修として英語以外の外国語を履修していることが、登録情報から確認できている。

アンケート回答を集計した 1 年次生の選択外国語履修状況は表 1 の通りである。各学科の選択外国語履修者数を各学科アンケート回答者数合計で割った値を 1 年次生の「選択外国語履修率」とみなすと、2015（平成 27）年度は地球市民学科、文化史学科の選択外国語履修率が他学科に比べて高いことがわかる。また、英語に代えて他の外国語を必修としているのは少数であることから、英語以外の外国語を履修していると回答した 1 年次生のほとんどは、必修の英語と同時に履修しているということになる。

表 1 選択外国語履修 1 年次生の数(複数回答)

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
スペイン語	5	9	0	10	11	35
フランス語	4	11	1	11	5	32
ドイツ語	7	0	0	14	7	28
中国語	5	2	2	8	6	23
朝鮮・韓国語	2	5	3	4	3	17
計	23	27	6	47	32	135
履修率	22%	22%	10%	42%	52%	30%

＜選択外国語履修の理由＞

英語以外の外国語をなぜ履修しようと思ったのか、そのきっかけを尋ねたところ、5 学科とも「以前から学びたいと思っていたから」という理由が最も多かった（表 2）。また少数ではあるが、その他の理由として、

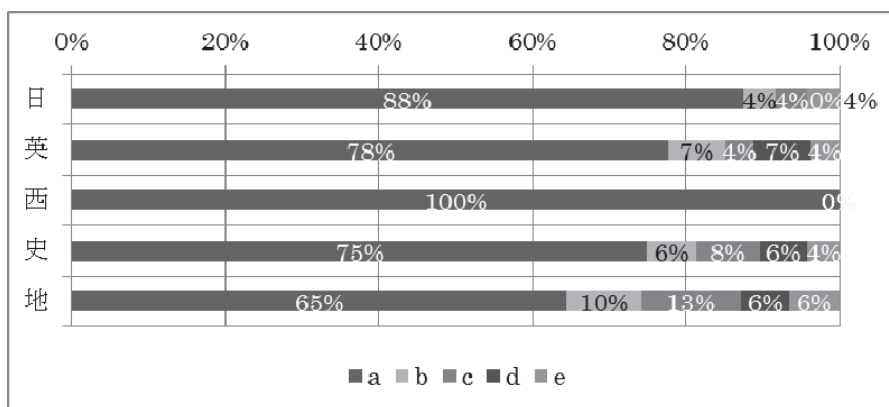
- ・カナダの英語に興味があるから⁶（フランス語履修者）
- ・英語が苦手だったから（フランス語履修者）
- ・高校から学んでいたため続けようと思ったから（中国語履修者）

等の回答もあった。他にも滞在経験があった、親戚にネイティブ話者がいるという理由も見られたが、初めて学ぶ外国語については、以前からの興味で始めてみようと思う学生が大半であることがわかる。シラバスや友人・先輩からの情報によって、というよりも、個々人の関心・判断で履修を決めているようだ。1 年次生は他の学年に比べて空いている時限が少ないということもあるかもしれないが、時間割上都合がよかったという消極的な履修理由はわずかである。

⁶ フランス語も話されているカナダに興味があるから、という意味かと推測する。

表2 選択外国語を履修しようと思った理由(複数回答)⁷

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	21	21	5	36	20	103
b	1	2	0	3	3	9
c	1	1	0	4	4	10
d	0	2	0	3	2	7
e	1	1	0	2	2	6



- a. 以前から学びたいと思っていたから
 b. シラバスを読んで興味を持ったから
 c. 友人や先輩にすすめられたから
 d. 時間割上都合がよかったから
 e. その他

⁷ 表2を含め、この後掲載の表内の数字はすべて回答者人数を表す。

＜学習意欲の変化＞

4月の履修開始時のやる気を尋ねたところ、どの学科も「とてもやる気があった」「ある程度やる気があった」との回答であった（表3）。以前から関心のあった外国語を、少なくとも4月の段階では意欲的に学ぼうとしている。ほとんどの学生が選択科目の一つとして楽しみに新しい外国語を学び始めていると想像できる。自由に選ぶことのできる科目の利点といえるだろう。

表3 4月の選択外国語履修に対する学習意欲

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	15	19	5	24	20	83
b	9	7	1	22	11	50
c	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0

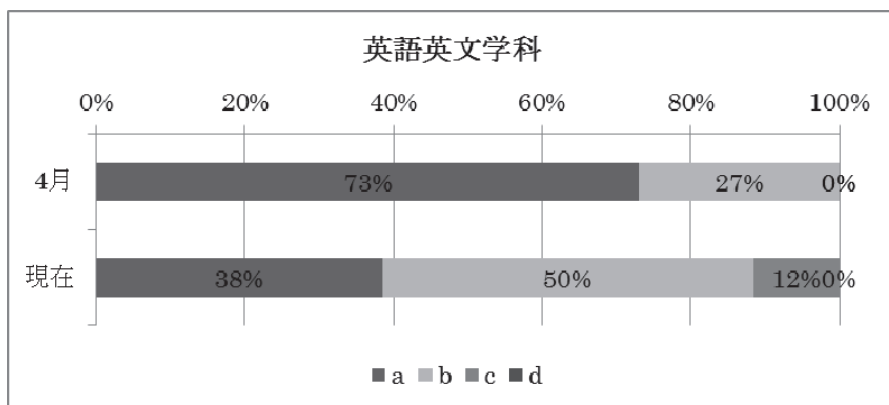
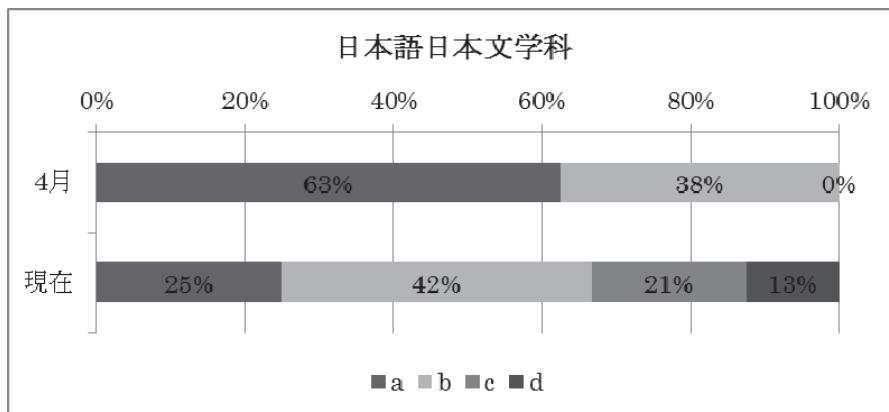
- a. とてもやる気があった
- b. ある程度やる気があった
- c. あまりやる気がなかった
- d. まったくやる気がなかった

一方、1月現在のやる気についての結果を見ると、「あまりやる気がない」を選んだ学生が（英語英文学科以外は「まったくやる気がない」も）増える（表4）。特に、「あまりやる気がない」「まったくやる気がない」の合計を見ると、地球市民学科の増加が目立つ。約1年間学習を続けたのち、学ぶ意欲を失っている学生が少なからずいることを示している。当初の期待と、実際の授業・学習内容のギャップを感じた結果であろうか。現在1年次生の取ることのできる選択外国語はすべて通年科目であるが、もし半期科目であれば希望者のみが後期も学習を継続することになり、こうした意欲の減退は見られなくなるだろうか。

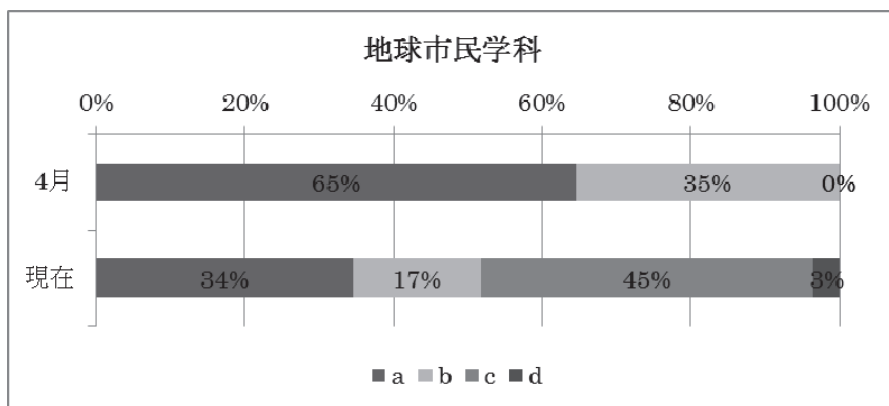
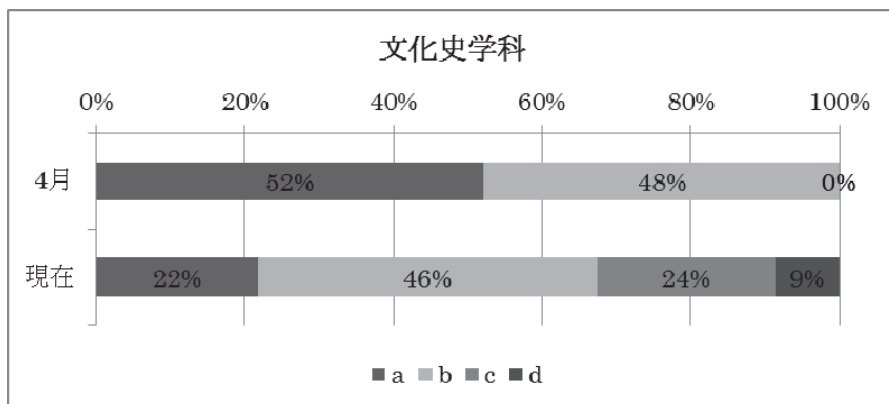
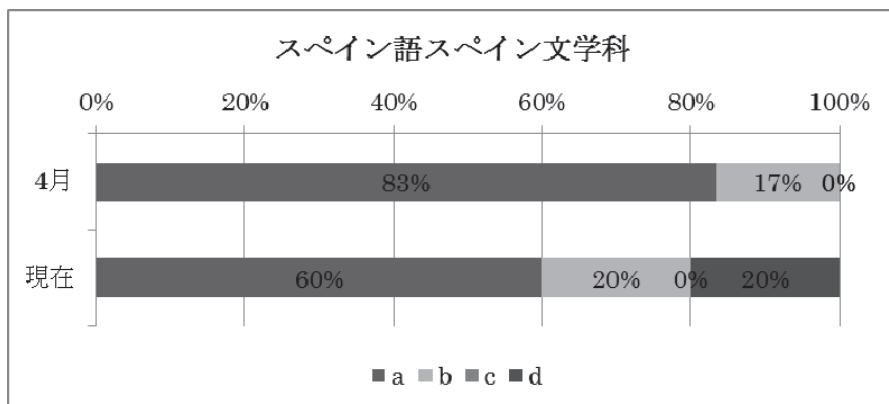
表4 1月現在の選択外国語履修に対する学習意欲

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	6	10	3	10	10	39
b	10	13	1	21	5	50
c	5	3	0	11	13	32
d	3	0	1	4	1	9

- a. とてもやる気がある
 b. ある程度やる気がある
 c. あまりやる気がない
 d. まったくやる気がない



共通基礎（英語等の外国語）科目に関するアンケート調査報告
－学生の授業に対する意識－

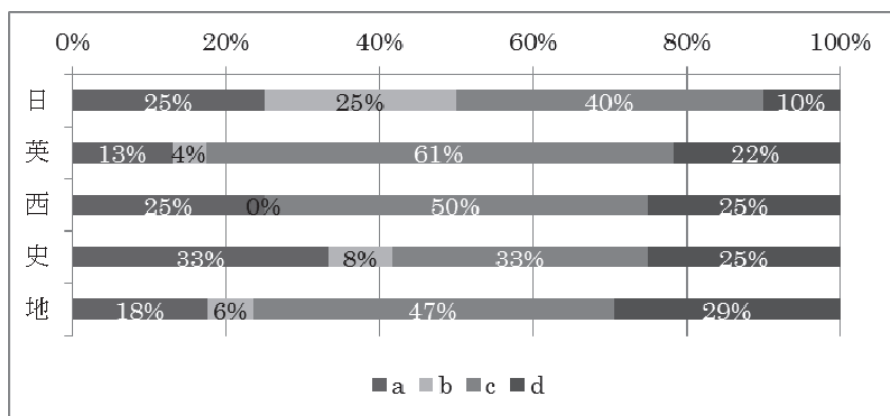


＜学習意欲維持の理由＞

1月現在「とても・ある程度やる気がある」と答えた学生たちが一番の理由として挙げたのは「話せるようになりたいから」であった(表5)。様々な学科や学年の学生が集まる選択外国語クラスの場合、授業の雰囲気の良い、というよりも、話せるようになりたいから頑張っているという様子がうかがえる。また文化史学科、日本語日本文学科の学生には言語そのものの面白さを理由とした者も比較的多いが、地球市民・英語英文学科では、将来役に立つ・役立たせたい、という思いの方が強いようである。

表5 選択外国語の学習意欲維持の理由

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	5	3	1	12	3	24
b	5	1	0	3	1	10
c	8	14	2	12	8	44
d	2	5	1	9	5	22



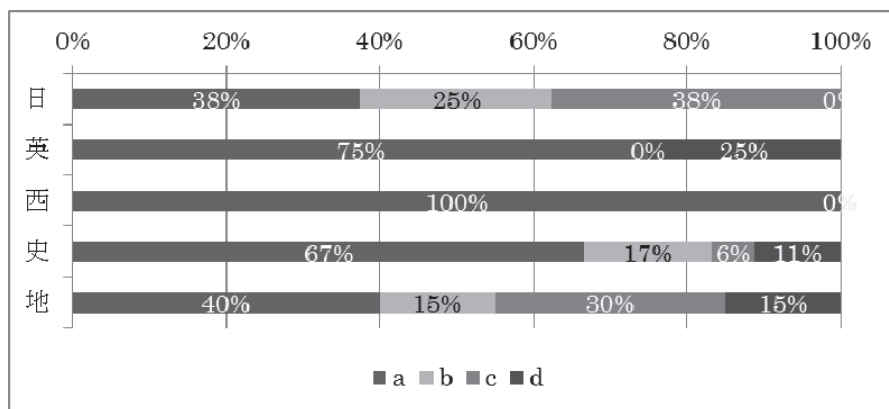
- a. 学んでいる外国語が面白いから
- b. 授業の雰囲気(先生、クラスメート、進め方等)が良いから
- c. 話せるようになりたいから
- d. 将来きっと役に立つと思うから

＜学習意欲減少の理由＞

反対に、年度末にはやる気なくなってしまうという学生に理由を尋ねたところ、どの学科の学生からも「文法が難しいから」という意見が聞かれた（表 6）。初めての外国語を学ぶ際に文法学習は必須であるが、学生には文法が難しいという感覚が強いことがわかる。2005（平成 17）年度から英語以外の外国語が選択科目として設定されて以来、初めて学ぶ外国語を選択履修する際には、「〇〇語（文法）」という基礎文法重視の科目をまず履修して学習するように、という指導をしている。強制されたわけではなく、みずから学んでみたいと思って始めた学生たちが、最後まで関心や意欲を失わずに学習を続けられるようにするには、科目設定や履修制度等をあらためて見直していく必要があるかもしれない。

表 6 選択外国語の学習意欲減少の理由

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	3	3	1	12	8	27
b	2	0	0	3	3	8
c	3	0	0	1	6	10
d	0	1	0	2	3	6



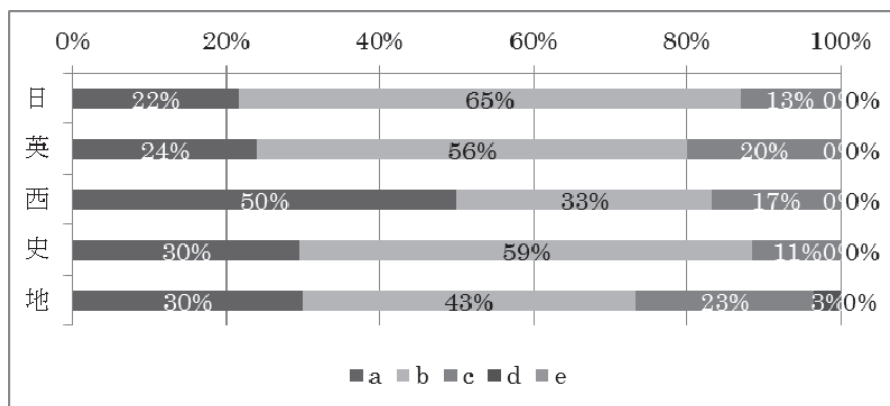
- a. 文法が難しいから
- b. 文を読んだり書いたりするのが難しいから
- c. 話したり聞き取ったりするのが難しいから
- d. その言語に関わる文化に興味を持てないから

<授業の難易度>

多くの学生が外国語の授業は（とても）難しいと感じている（表7）。難しいと感じる要素としては、発音が難しい、進度が速い、英語との違いに戸惑う等、様々な側面が関わっていると思われるが、前述の回答結果と合わせて考えれば、やる気がなくなってきたと答える学生たちの感じる「授業の難しさ」は「文法の難しさ」ということなのだろう。

表7 選択外国語の授業の難易度

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	5	6	3	13	9	36
b	15	14	2	26	13	70
c	3	5	1	5	7	21
d	0	0	0	0	1	1
e	0	0	0	0	0	0



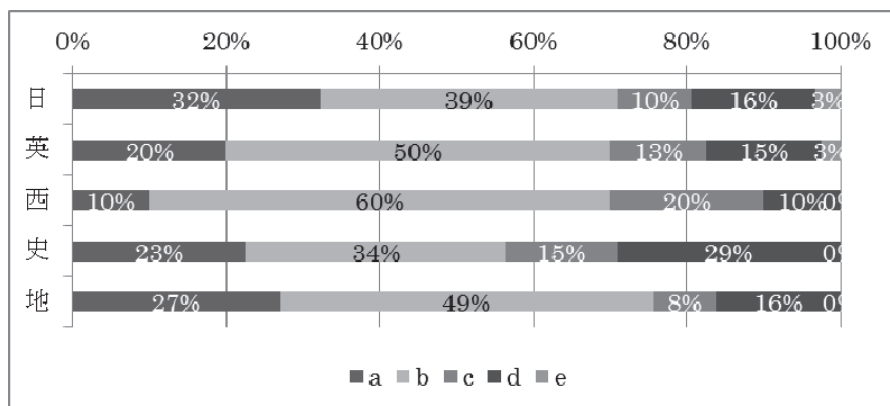
- a. とても難しい
- b. 難しい
- c. ちょうどよい
- d. 易しい
- e. とても易しい

<授業で学びたいこと>

外国語の授業ではどんなことを学びたいかを聞いたところ、どの学科も「会話練習をしたい」が最も多かった（表8）。日本語日本文学科、英語英文学科、地球市民学科で次に多く選ばれたのは「文のしくみや単語の意味を学びたい」であった。文化史学科については言語に関わる文化を学びたいという回答が増えるが、他学科の学生は文化よりことばそのものの学習に関心があるようである。本を読んでみたい、という声が少ないのは5学科に共通している。その他の回答として韓国語履修者からは、「ドラマを見て日常会話を学びたい」という声も聞かれた。外国語学習イコール会話練習というとらえ方が学生には強い。

表8 選択外国語の授業で学びたいこと(複数回答)

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	10	8	1	14	10	43
b	12	20	6	21	18	77
c	3	5	2	9	3	22
d	5	6	1	18	6	36
e	1	1	0	0	0	2



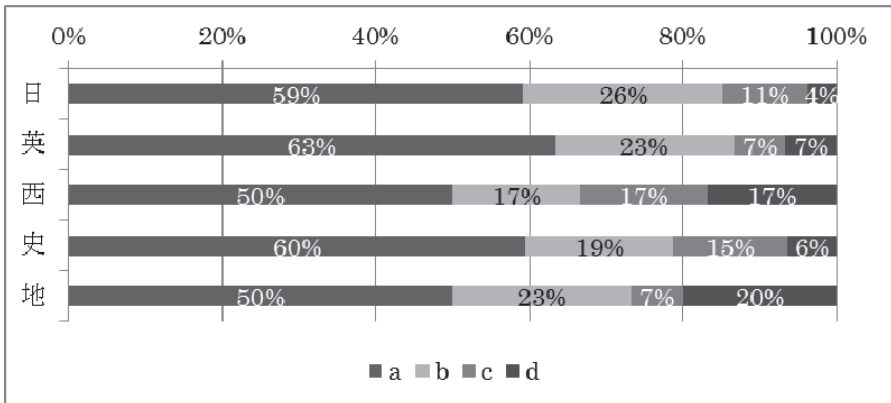
- a. 文のしくみや単語の意味を学びたい
- b. 会話練習をしたい
- c. 文章や本を読みたい
- d. その言語に関わる文化を学びたい
- e. その他

<履修外国語をどのようにいかしたいか>

どの学科も圧倒的に「旅行に行って使ってみたい」という希望である(表9)。「授業で学びたいこと」の結果を踏まえて考えると、授業で会話の練習をして、覚えたことをいつか旅先で使えれば、という気持ちから学習している様子がうかがえる。また検定試験への関心も少なからず見られる。せっかく学んだ外国語の学習経験をなんらかの形に残したいという考えだろうか。文化史学科には「専門分野の勉強にいかしたい」、地球市民学科には「将来仕事で使いたい」という意識が他学科より目立つ。

表9 履修中の英語以外の外国語をどのようにいかしたいか

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	16	19	3	28	15	81
b	7	7	1	9	7	31
c	3	2	1	7	2	15
d	1	2	1	3	6	13



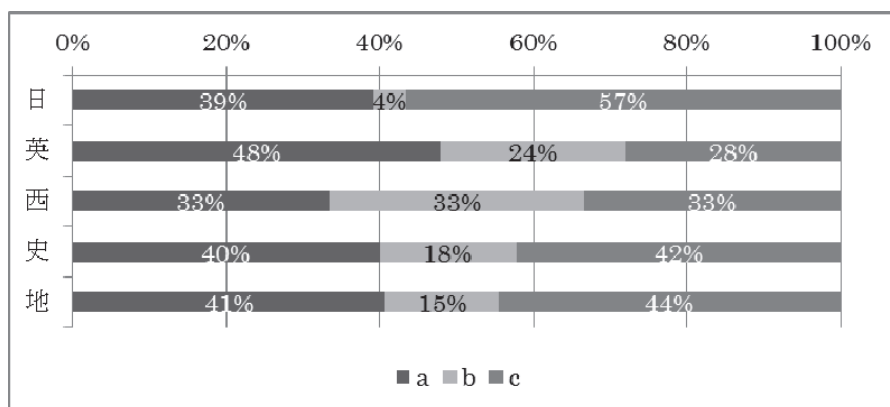
- a. 旅行に行って使ってみたい
- b. 検定試験を受けてみたい
- c. 自分の専門分野の勉強にいかしたい
- d. 将来仕事で使いたい

＜来年度の選択外国語履修希望＞

これまでと同じ、または異なる外国語を学びたい、という a と b の合計を「英語以外の外国語履修希望者」と考えれば、日本語日本文学科を除いた 4 学科では、来年度は英語のみ履修すると答えた人数よりも多いことがわかる（表 10）。また、今年度とは異なる外国語を取ろうという学生よりは、同一外国語の学習を継続しようという意識の方が強い。2015（平成 27）年度選択外国語を学んだ学生たちのほぼ半数が、引き続き来年度もなんらかの英語以外の外国語をとるつもりだと答えているということは、英語とは異なる外国語への関心を寄せる学生は決して少なくない、と考えてよいのではないだろうか。

表10 来年度の選択外国語履修希望

	日文	英文	西文	文化史	地民	計
a	9	12	2	18	11	52
b	1	6	2	8	4	21
c	13	7	2	19	12	53



- a. 来年度も今年度と同じ英語以外の外国語を履修するつもりだ
- b. 来年度は今年度とは違う英語以外の外国語を履修するつもりだ
- c. 来年度は英語以外の外国語を履修するつもりはない

4. まとめ

英語履修者では、4月の授業開始時には大多数の学生の学習意欲は高い。しかしながら、必修科目であるため、少数ではあるが最初からやる気のない学生がいることが、自ら進んで選択する外国語履修者と異なる点であった。

1年間の授業を終えた1月現在の学習意欲を見ると、5学科ともやる気のある学生が最多数ではある。少数のやる気のない学生が若干増加しているが、「自分のレベルに合っていないから」学習意欲が減少したと回答した学生は少なかった。さらに、「授業の雰囲気（先生、クラスメート、進め方等）が良いから」学習意欲を維持できたという回答数が多かったことから、必修科目の英語のクラス分けは、学生にとって効果的だと推察できる。

英語の授業の難易度についての質問には、「ちょうどよい」という回答が最も多かった。学科によって若干異なるが、52%から73%の学生が、授業の難易度はちょうどよいと思っている。一方で、難しすぎる、または易しすぎると感じている学生を合計すると、少ない学科でも27%、多い学科では48%になった。さらに学生の声を聞く調査をすることによって、改善の余地はあると思われる。

選択外国語履修者に関しては、その多くが、以前からの興味・関心から初めての外国語に挑戦しようと履修を決め、そして授業開始当初は大変意欲的に学習をスタートしていることがわかった。授業での会話練習を通して日常会話ができるようになり、学んだ言葉を使って旅をする自分の姿をイメージしている学生も多いようだ。しかしながら、初めて接する外国語の学習は予想以上に厳しく、難しい文法にやる気が失せる者も少なくない。4月の期待を裏切ることなく、少しでも多くの学生たちが最後まで熱意をもって学習に取り組めるようにするには、選択外国語の科目設定、履修のルール、授業の進度、使用教材等、様々な面から検討を開始しなければならないだろう。

一方で、初めて学ぶ外国語は面白い、将来役に立つかもしれない・役立たせたいと思いながら頑張っている学生や、専門分野の勉強との関連を見出す学生、検定試験への意欲を見せる学生も少なからずいることは、本学

の選択外国語科目を運営するにあたり、大変心強いコメントである。

今回のアンケートは、次年度の英語クラス希望調査も兼ねていたため、学籍番号を書いてもらう必要があった。思った通りに答えてほしい旨を伝えてから実施したが、より詳細な情報を得る調査とするためには、実施方法や実施時間等、再検討しなければならない。きめ細やかな指導を考えていくためにも、質問項目や選択肢を増やす、また必要に応じてインタビューをする等の方法も考えられる。

調査方法に改善すべき点はあるものの、本学に入学して外国語を学んできた1年次生の、英語・選択外国語授業への意識を知ることのできる貴重なデータが得られた。今回の調査結果をもとに、本学の外国語カリキュラムの改善に向けた検討を続けていきたい。

謝辞

調査結果データのとりまとめ及び表・グラフ作成には、本学学務課の中川裕二氏にご協力いただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

【資料】実施アンケート⁸

アンケートのお願い(日・史・地)

本学の外国語科目カリキュラムをよりよいものにしていくため、共通基礎(英語等の外国語)科目についてのみなさんの考えをお聞きます。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。答えはすべてマークシートに記入してください(設問 9, 12, 18 は、マークシート裏面にも記入可)。本アンケートは回収しませんので、マークシート記入の控えとしてお持ち帰りください。

0. マークシートの「学籍番号」欄にあなたの学籍番号を記入し、数字をマークしてください。

1. あなたの所属する学科をマークしてください。

- a. 日本語日本文学科
- b. 英語英文学科
- c. スペイン語スペイン文学科
- d. 文化史学科
- e. 地球市民学科

2. 来年度の「英語科目」の履修希望を教えてください。(複数回答不可)

- a. 上級英語Ⅱ (集中的にスキル・トレーニングを行い、より高い英語力を養成する)
- b. 英語Ⅱ (レベルに即した英語学習を行い英語力を向上させる)
- c. 基礎英語Ⅱ (基礎的な事柄から徹底的に学習しなおす)

※cは、基礎英語Ⅰを選択している学生のみ選択できます

d. 来年度は、英語以外の外国語を必修として履修することを希望する

※d は、本年度と来年度で、必修の言語を変更する場合(英語科目→外国語科目 or 外国語科目→英語科目)「変更希望届」を学務課にて提出してください。

3. 今年度履修している「英語科目」を教えてください。

- a. 英語Ⅰ
- b. 基礎英語Ⅰ
- c. 上級英語Ⅰ
- d. 今年度は a, b, c いずれも履修していない(11に進んでください。)

4. 今年度4月に英語の履修を始めるとき、あなたのやる気はどれくらいありましたか？

- a. とてもやる気があった
- b. ある程度やる気があった
- c. あまりやる気がなかった
- d. まったくやる気がなかった

⁸ 英語英文学科・スペイン語スペイン文学科生対象の調査用紙は、質問項目2・3の選択肢に「基礎英語」が含まれないことのみの違いであるため、掲載を省略する。

5. 英語の履修に対する現在のあなたのやる気はどれくらいありますか？

- a. とてもやる気がある
- b. ある程度やる気がある
- c. あまりやる気がない
- d. まったくやる気がない

6. 5 で「a. とてもやる気がある」「b. ある程度やる気がある」を選んだ方にお聞きます。
最もあてはまる理由を1つ選んでください。（回答後 8 へ進んでください。）

- a. 自分のレベルに合っているから
- b. 授業の雰囲気（先生、クラスメート、進め方等）が良いから
- c. 話せるようになりたいから
- d. 将来きつと役に立つと思うから

7. 5 で「c. あまりやる気がない」「d. まったくやる気がない」を選んだ方にお聞きます。
最もあてはまる理由を1つ選んでください。

- a. 自分のレベルに合っていないから
- b. 文を読んだり書いたりするのが難しいから
- c. 話したり聞き取ったりするのが難しいから
- d. 英語に関わる文化に興味を持てないから

8. 英語の授業の難易度を教えてください。

- a. とても難しい
- b. 難しい
- c. ちょうどよい
- d. 易しい
- e. とても易しい

9. 英語の授業ではどんなことを学びたいですか。（複数回答可）

- a. 会話練習をしたい
- b. 文章や本を読みたい
- c. 英語に関わる文化を学びたい
- d. 社会に出てから役に立つ英語を学びたい
- e. その他（マークシートの裏面に、設問番号「9」と書いて記述してください）

10. 来年度の外国語履修について教えてください。

- a. 来年度は英語科目のみを履修するつもりだ
- b. 来年度は英語科目に加えて、英語以外の外国語も履修するつもりだ

〔今年度、英語以外の外国語を履修している方は、次の 11～20 の質問にもお答えください。スペイン語スペイン文学科生は「英語・スペイン語以外の外国語」について回答してください。〕

11. 今年度履修している英語以外の外国語を教えてください。(複数回答可)

- a. スペイン語(西文科のスペイン語科目のことではありません)
- b. フランス語
- c. ドイツ語
- d. 中国語
- e. 朝鮮・韓国語

[今年度、英語以外の複数の外国語を履修している方は、そのうちの1つの外国語について、以下回答してください。]

12. 英語以外の外国語を履修しようと思った理由を教えてください。(複数回答可)

- a. 以前から学びたいと思っていたから
- b. シラバスを読んで興味を持ったから
- c. 友人や先輩にすすめられたから
- d. 時間割上都合がよかったから
- e. その他(マークシートの裏面に、設問番号「12」と書いて記述してください)

13. 4月に英語以外の外国語の履修を始めるとき、あなたのやる気はどれくらいありましたか?

- a. とてもやる気があった
- b. ある程度やる気があった
- c. あまりやる気がなかった
- d. まったくやる気がなかった

14. 英語以外の外国語の履修に対する現在のあなたのやる気はどれくらいありますか?

- a. とてもやる気がある
- b. ある程度やる気がある
- c. あまりやる気がない
- d. まったくやる気がない

15. 14で「a. とてもやる気がある」「b. ある程度やる気がある」を選んだ方にお聞きます。最もあてはまる理由を1つ選んでください。(回答後17へ進んでください。)

- a. 学んでいる外国語が面白いから
- b. 授業の雰囲気(先生、クラスメート、進め方等)が良いから
- c. 話せるようになりたいから
- d. 将来きっと役に立つと思うから

16. 14で「c. あまりやる気がない」「d. まったくやる気がない」を選んだ方にお聞きます。最もあてはまる理由を1つ選んでください。

- a. 文法が難しいから
- b. 文を読んだり書いたりするのが難しいから
- c. 話したり聞き取ったりするのが難しいから
- d. その言語に関わる文化に興味を持てないから

17. 英語以外の外国語の授業の難易度を教えてください。
- a. とても難しい
 - b. 難しい
 - c. ちょうどよい
 - d. 易しい
 - e. とても易しい
18. 外国語の授業ではどんなことを学びたいですか。（複数回答可）
- a. 文のしくみや単語の意味を学びたい
 - b. 会話練習をしたい
 - c. 文章や本を読みたい
 - d. その言語に関わる文化を学びたい
 - e. その他（マークシートの裏面に、設問番号「18」と書いて記述してください）
19. 履修中の外国語を、今後どのようにいかしたいですか。
- a. 旅行に行って使ってみたい
 - b. 検定試験を受けてみたい
 - c. 自分の専門分野の勉強にいかしたい
 - d. 将来仕事で使いたい
20. 来年度の英語以外の外国語履修について教えてください。
- a. 来年度も今年度と同じ英語以外の外国語を履修するつもりだ
 - b. 来年度は今年度とは違う英語以外の外国語を履修するつもりだ
 - c. 来年度は英語以外の外国語を履修するつもりはない

ご協力ありがとうございました。